第3回企画展図録

弥生人の祈り

免田式土器の謎

1993

熊本県立装飾古墳館

表紙写真

阿蘇郡久木野村大字久石柏木谷遺跡免田式土器出土状態

企画展開催にあたって

熊本県立装飾古墳館は、昨年４月に開館し、本年４月15日をもちまして１年が経過しました。

その間、大変多くのお客様にご来館いただき、職員一同喜んでいるところです。また、多くの方々の考古学に対する関心が、いかに高いものであるかということがわかり、熊本県の文化施設の中核として、今後とも来館される皆様のご期待にそえるよう、努力していかなければならないと感じております。

さて、今回は、第３回企画展として、「弥生人の祈り―免田式土器の謎―」を開催いたします。免田式土器は、弥生時代の熊本を代表する土器で、その文様と形の特異さから、古くから研究者の注目を集めることになりました。

最初の発見から70年ほど経過した今日、遺跡発掘の増加により、徐々にこの土器の様相が明らかにされつつあります。

そこで、今回の企画展を通し、免田式土器がどのように誕生し、何のために利用されたのかなどをご紹介します。その中から、弥生人の祈りが、現代の私たちに、何を問いかけているのかを考えていただければ幸いに思います。

展示に際しましては、学問的な用語をできるだけ省き、分りやすい内容で、多くの方々にご理解いただけるよう心がけました。まだ開館まもなく、研究不足の点もございますので、多くの方々のご批判を賜りたいと思います。

本展の実施にあたりましては、多くの研究機関や個人の方々にお世話になりました。あつくお礼申し上げます。

平成５年４月29日

熊本県立装飾古墳館館長　原　口　長　之

目次

はじめに

1．免田式土器とは何か……3
　○様々な免田式土器……4
　○高田素次氏所蔵の免田式土器……6

2．免田式土器の分布……8
　○免田式土器出土遺跡の分布図……8
　○免田式土器出土遺跡の地名表……10

3．免田式土器の交流……16

4．免田式土器の誕生……18

5．様々な遺跡と免田式土器……20
　○夏女遺跡……20
　○二子塚遺跡……23
　○下山西遺跡……26
　○大萩遺跡……28
　○堂前遺跡……30
　○柏木谷遺跡……32
　○大丸・藤ノ迫遺跡……34
　○中岡遺跡……35

6．免田式土器はどのように利用されたのか……37

7．免田式土器の終末……38

・所蔵者別出品資料目録……39
協力機関・協力者一覧……41

1．免田式土器とは何か

今からおよそ70年ほど前、算盤形の胴部に半円を幾重にも描く重弧文が施された弥生土器が紹介されました。一般的な弥生土器にあまり文様が施されていないのに対して、この土器の文様が特徴的であったことから、その後「重弧文土器」と呼ばれるようになります。

類例が少しずつ紹介されるようになった昭和12年、球磨郡免田町で本目遺跡と市房隠遺跡が調査されました。調査をされたのが、郷土史研究で著名な高田素次氏(球磨郡上村在住)と永く日本考古学会のリーダーとして活躍された故・乙益重隆氏(元国学院大学教授)です。

これらの遺跡からは、重弧文土器の他に、形は似ているのに、鋸の歯のような文様(鋸歯文)が施された土器も出土しました。また、縄文時代の土器や弥生時代前期の土器にも重弧文のような文様が施された土器があるため、「重弧文土器」と言う呼び方を変える必要にせまられました。

そこで、２つの遺跡がある免田町の町名をとって「免田式土器」と呼ばれるようになったのです。

この免田式土器は、弥生時代の後期後半頃に盛んに作られたようです。３世紀、「魏志倭人伝」の中に邪馬台国や女王卑弥呼のことが述べられている時代とほぼ同じ頃と考えてもよいでしょう。

免田式土器は大まかに、文様から２種類、形から９種類に分類することができます。

文様は前に述べた通り、重弧文と鋸歯文があり、それらの文様と一緒にワラビのような文様(ワラビ手文)が施される例もあります。鋸歯文が施される例は、人吉球磨地方以外ではあまりありません。また、ワラビ手文がつけ加えられている例は、市房隠遺跡以外では出土していません。

形の上からは、次のように分類できます。

①算盤形の胴部から、頸部がラッパ状に長く伸びて口縁部に続く壺(長頸壺)

②算盤形の胴部に短い頸がつく壺(短頸壺)

③算盤形の胴部に頸部がない壺(無頸壺)

④算盤形の胴部から口縁部が朝顔のように開く壺(朝顔形口縁壺)

⑤楽器の鼓の形をした壺(鼓形壺)

⑥口縁部にさらに粘土をつぎたし、口縁部が二重になった壺(二重口縁壺)

⑦ヒョウタンのような形の壺(ヒョウタン形壺)

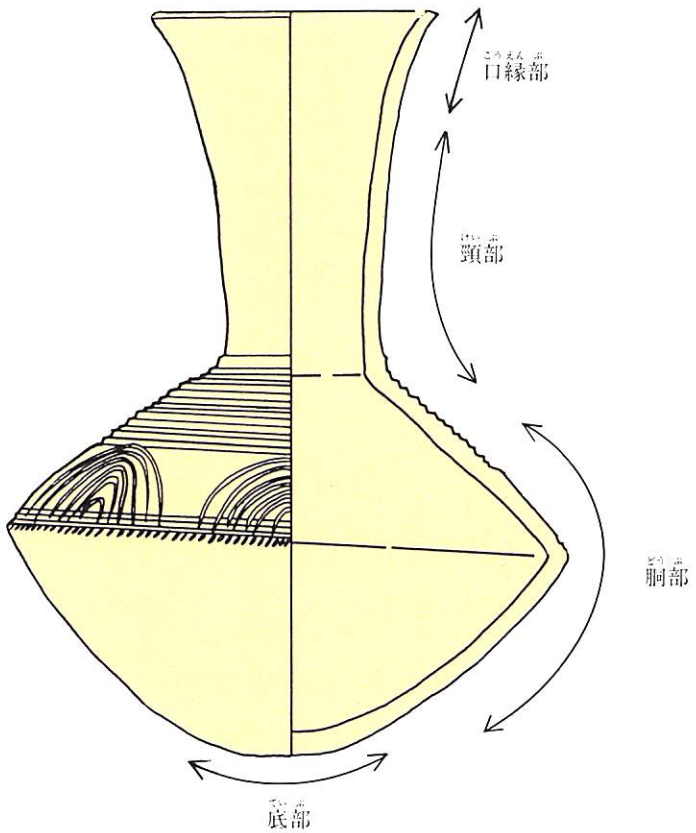
⑧ビールを飲む時に使うジョッキの形をした土器(ジョッキ形土器)

⑨船の形をした注口土器(船形注口土器)

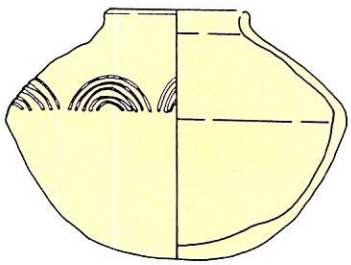
現在の段階で圧倒的に多く出土しているのは、①の長頸壺で、他の種類の土器は、あまり出土例がありません。

様々な免田式土器

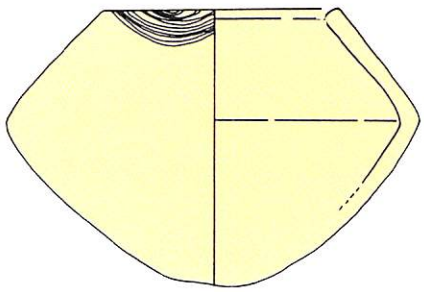
①長頸壺



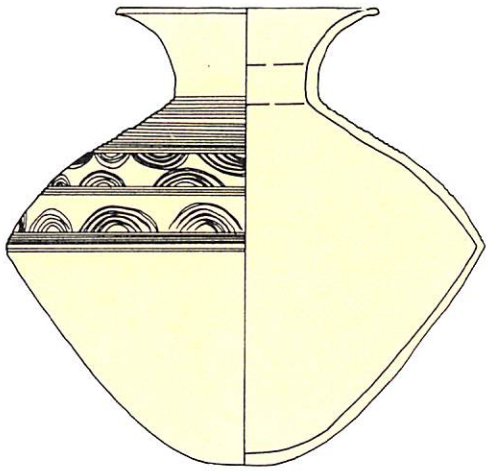
②短頸壺



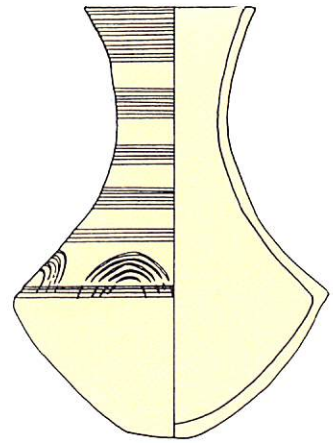
③無頸壺



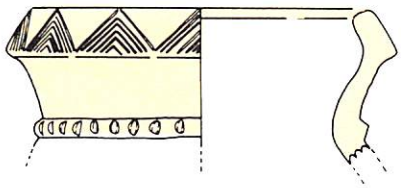
④朝顔形口縁壺



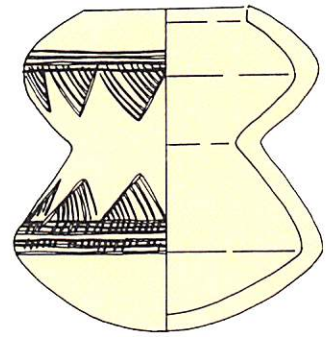
⑤鼓形壺



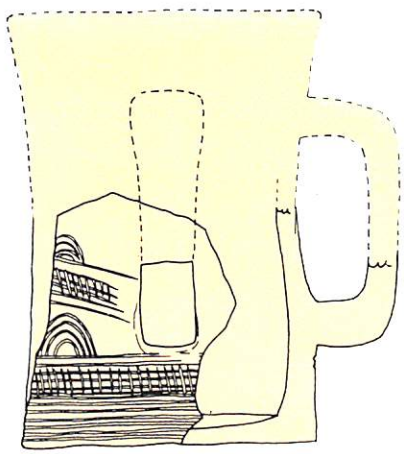
⑥二重口縁壺



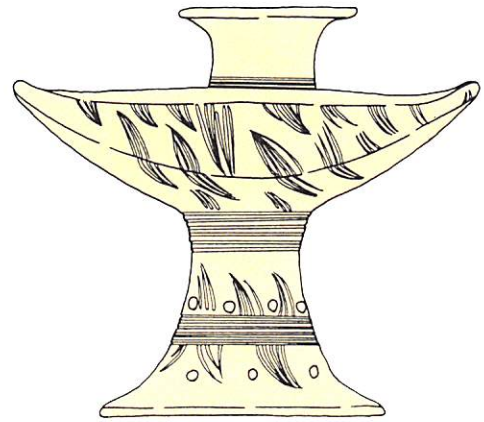
⑦ヒョウタン形壺



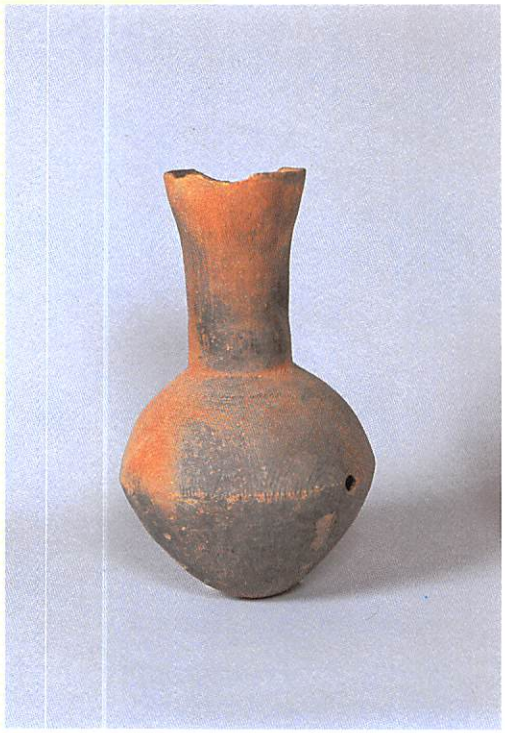
⑧ジョッキ形土器



⑨船形注口土器

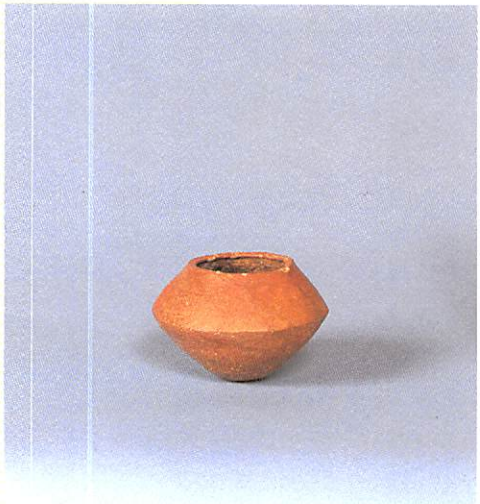


高田素次氏所蔵の免田式土器



本目遺跡出土

本目遺跡出土



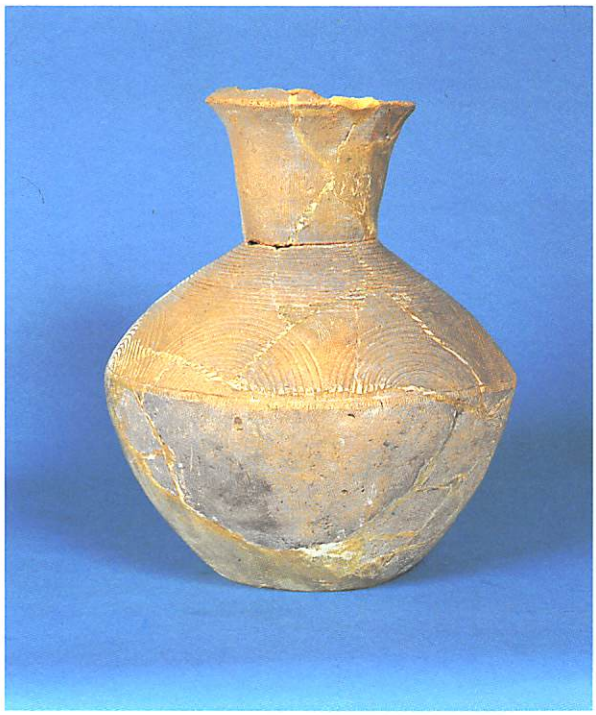
金山遺跡出土

本目遺跡出土

本目遺跡出土

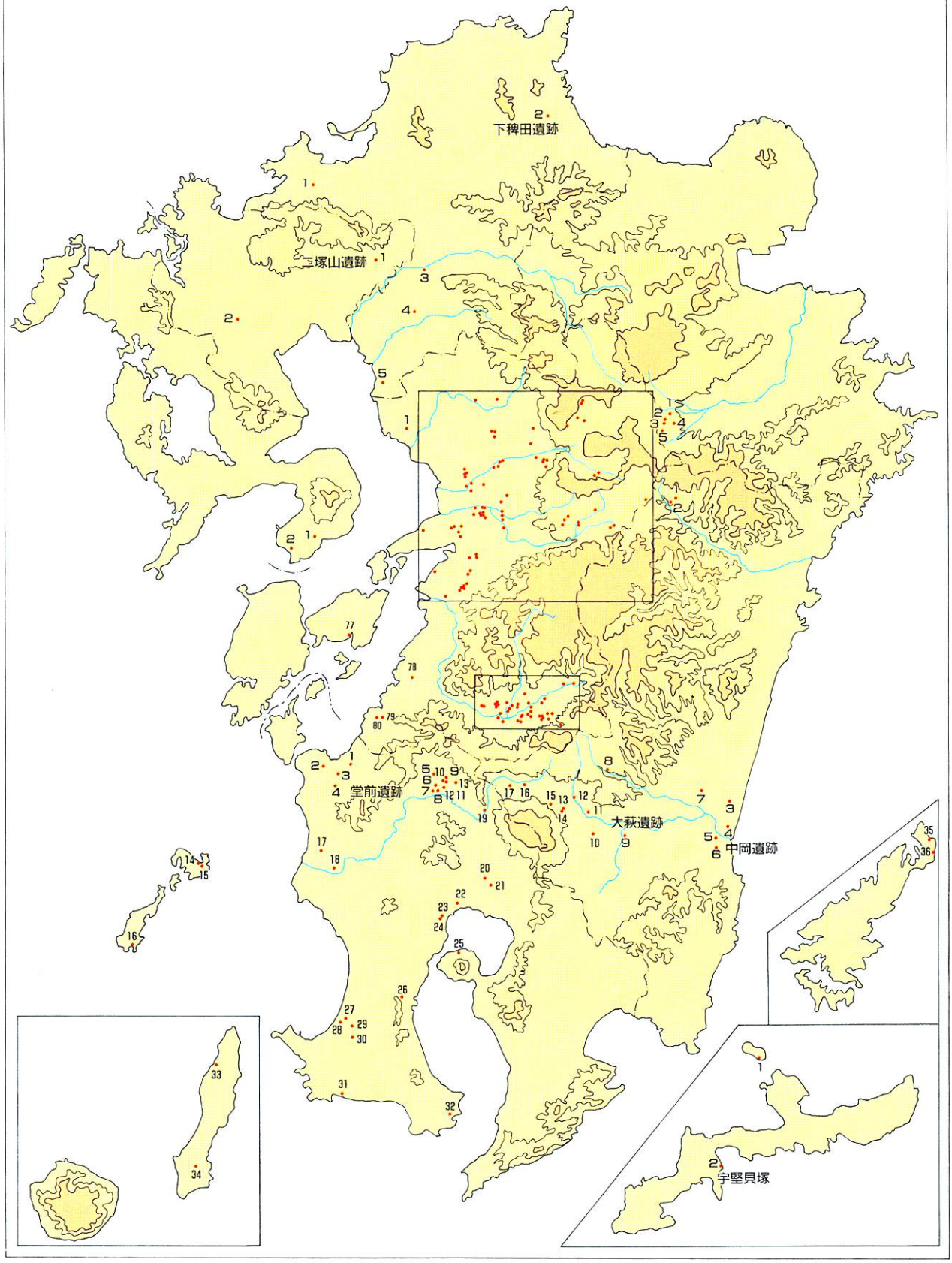
才柿遺跡出土

本目遺跡出土



市房隠遺跡出土

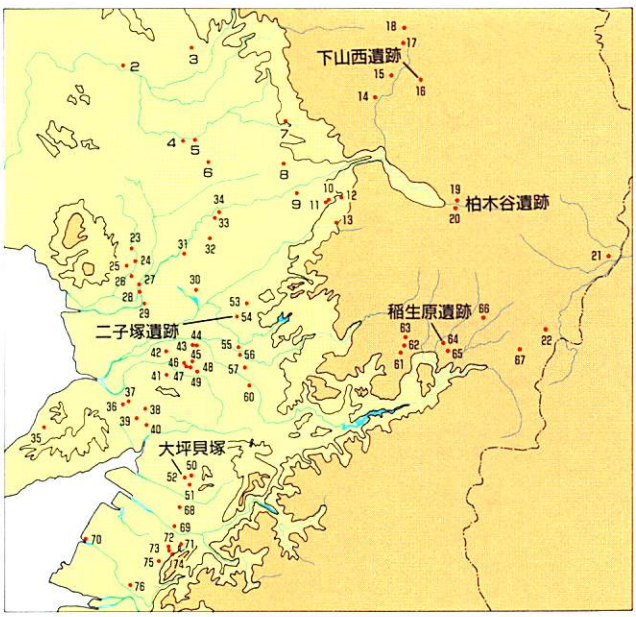
免田式土器に似た壺(本目遺跡出土)


下稗田遺跡
三塚山遺跡
堂前遺跡
大萩遺跡
中岡遺跡
宇堅貝塚

2. 免田式土器の分布

免田式土器は、分布図をみてもわかるように熊本県を中心に鹿児島県や宮崎県など九州の中・南部地方から多く出土しています。

熊本県地方についてくわしくみてみると、白川流域、緑川流域、宇土半島周辺、人吉・球磨地方などで出土が多いようです。天草地方には１例しか出土例がなく、菊池川流域では、わずかしか出土していません。



天草地方では、弥生時代の発掘調査があまり行われていないため、出土例が少ない原因は、よくわかっていません。

菊池川流域には、弥生時代の遺跡がたくさんあります。しかし、免田式土器の出土例がほとんどないことには、何かわけがあるのではないでしょうか。

この地方は、北部九州との関係が強かったと指摘する研究者が多いようです。例えば、弥生時代中期、北部九州では、死んだ人を大きな甕に入れて埋葬する習慣があります（甕棺墓）。この甕棺が、県内では菊池川流域で一番多く発見されていますが、熊本平野や宇土半島周辺の一部を除いて、その他の地域ではあまり発見されていません。また、北部九州でよく出土する銅剣や銅矛などの多くが、県内ではこの地域から発見されています。古墳時代に入ると装飾古墳における表現や古墳に石人・石馬を並べる風習など、北部九州との関係が指摘できるようです。

このように考えてみると、断定はできませんが、菊池川と白川の間を境として、北部九州との関係が深い社会と、それとは別に、独自の文化を築きあげた人々の社会があったのではないかと考えられます。そして、独自の文化のひとつが免田式土器に表れているのではないかと思われるのです。

免田式土器出土遺跡地名表

■福岡県

番号	遺跡名	所在地	立地	備考
1	三雲	前原市三雲番上		住居跡
2	下稗田	行橋市下稗田	低丘陵	住居跡床面
3	安国寺	久留米市山川町池廻	自然堤防上	住居跡
4	亀ノ甲	八女市亀甲	中位段丘	集落跡
5	甘木山	大牟田市甘木甘木山	台地	

■佐賀県

1	二塚山	三養基郡上峰村堤五本谷	河岸段丘	祭祀遺構
2	みやこ	武雄市橘町綿の木		

■長崎県

1	今福	南高来郡北有馬町今福		
2	永瀬貝塚	〃 加津佐町水月永瀬		貝塚

■熊本県

1	今泉西	玉名郡岱明町上今泉	台地	散布地
2	大道小学校校庭	山鹿市方保田大道小学校	〃	土壙
3	ククチ城	鹿本郡菊鹿町米原	〃	散布地
4	八反田	菊池郡西合志町合	〃	住居跡
5	福本	〃 泗水町福本八幡北側	〃	散布地
6	木瀬	〃 合志町豊岡	〃	集落跡
7	日向	〃 大津町矢護川日向	〃	住居跡
8	西弥護免	〃 〃 西矢護免	河岸段丘	集落跡
9	宝満鶴	〃 〃 岩坂宝満鶴		散布地
10	がくが峰	阿蘇郡西原村小森がくが峰		〃
11	田迎	〃 〃 〃 田迎		〃
12	大切畑	〃 〃 大切畑		〃
13	ならぎ	〃 〃 宮山ならぎ		〃
14	宮山	〃 阿蘇町的石	丘陵先端	住居跡
15	狩尾湯ノ口	〃 〃 狩尾	河岸段丘	〃
16	下山西	〃 〃 乙姫	丘陵先端	石棺墓、住居跡

■熊本県(つづき)

番号	遺跡名	所在地	立地	備考
17	向ノ平	阿蘇郡阿蘇町小園向ノ平		散布地
18	田子山	〃　〃　西湯浦北田子山		〃
19	下鶴	〃　白水村吉田下鶴		〃
20	柏木谷	〃　久木野村久石柏木谷	河岸段丘	土壙、住居跡
21	椎屋戸石平	〃　蘇陽町椎屋		散布地
22	大野	〃　〃　大野		〃
23	馬ノ水	熊本市花園町馬ノ水		
24	日向崎	〃　島崎町石神原	台地	集落跡
25	千原台	〃　〃　千原台		
26	戸坂	〃　戸坂		散布地
27	二本木石塘	〃　二本木町		
28	二本木湯原	〃　〃　湯原	河岸段丘	散布地
29	平田	〃　平田町		〃
30	神水	〃　神水		住居跡
31	下南部	〃　下南部	河岸段丘	集落跡
32	長嶺	〃　長嶺町		住居跡
33	石原亀甲	〃　石原町亀甲	河岸段丘	集落跡
34	弓削中原	〃　弓削町中原	〃	〃
35	田平	宇土市上網田町田平	微高地	散布地
36	城山	〃　古麓町城山		
37	宇土城三の丸	〃　神馬町古城	台地	散布地
38	境目	〃　境目町西原	〃	包含層
39	下松山	〃　下松山町	微高地	
40	出町	宇土郡不知火町御領出町	台地	土壙墓
41	木原	下益城郡富合町木原		
42	赤見前田	〃　城南町赤見前田	低地	散布地
43	西天神原	〃　〃　板野西天神原	台地	〃
44	東天神原	〃　〃　天神原	〃	住居跡
45	新御堂	〃　〃　宮地新御堂	〃	散布地
46	前無田	〃　〃　前無田	〃	〃
47	一丁畑	〃　〃　一丁畑	〃	〃
48	安幕	〃　〃　隈庄下宮地	〃	〃
49	迎原	〃　〃　迎原	〃	〃
50	立田	〃　小川町南小野立田		
51	高倉	〃　〃　北部田高倉		集落跡
52	大坪貝塚	〃　〃　南小野大坪		人骨共伴
53	秋永	上益城郡益城町秋永	丘陵	住居跡

■熊本県(つづき)

番号	遺跡名	所在地	立地	備考
54	二子塚	上益城郡嘉島町北甘木二子塚	台地	住居跡、環溝
55	南原	〃 御船町滝川南原	台地	墓地
56	下山神	〃 〃 御船下山神	〃	〃
57	上山神	〃 〃 御船上山神	丘陵	集落跡
58	山林神	〃 〃 山林神	台地	
59	南下原	〃 〃 南下原		
60	麻生原	〃 甲佐町麻生原	台地	
61	長田	〃 矢部町長田原		散布地
62	上原	〃 〃 蘆田上原		〃
63	十三本松	〃 〃 大野十三本松		〃
64	稲生原	〃 〃 稲生原	丘陵	土壙
65	男成	〃 〃 男成脇	〃	
66	朝日西部小	〃 清和村法蓮寺		
67	一ノ原	〃 〃 一ノ原		
68	大野貝塚	八代郡竜北町大野	丘陵	貝塚
69	法導寺	〃 〃 法導寺	平野	包含層
70	産島貝塚	八代市古閑浜町産島	島周縁	貝塚
71	小越堤	八代郡宮原町椿小越堤		
72	境	八代市岡町小路境	山麓	散布地
73	境古墳	〃 〃 〃 〃	〃	古墳
74	小路	〃 〃 〃 〃	〃	散布土
75	谷川	〃 〃 谷川	〃	〃
76	鐘楼堂貝塚	〃 井上町鐘楼堂	微高地	貝塚
77	宮崎	天草郡倉岳町棚底		石棺墓
78	宮浦	芦北郡芦北町宮浦横手		地下式板石積石室墓
79	初野貝塚	水俣市初野川内貝塚	台地斜面	貝塚
80	北園	〃 陣内北園		地下式板石積石室墓
81	小園	人吉市下原田町小園	微高地	〃
82	荒毛	〃 〃 荒毛	平野	〃
83	鼓ケ峰	〃 願成寺鼓ケ峰	台地	包含層
84	天道ケ尾	〃 七地町天道ケ尾	〃	〃
85	高城	球磨郡山江村山田城・本城	〃	攪乱層
86	城・馬場	〃 〃 〃	〃	〃
87	大丸・藤ノ迫	〃 〃 山田藤ノ迫	〃	土壙、住居跡
88	合戦ノ峰	〃 〃 合戦峰	〃	散布地
89	小園	〃 相良村深水小園	〃	住居跡
90	吉の尾	〃 〃 柳瀬吉野尾	河岸段丘	

■熊本県(つづき)

番号	遺跡名	所在地	立地	備考
91	三石	球磨郡相良村柳瀬三石	台地	散布地
92	無田原	〃 錦町西無田原	〃	〃
93	農芸学院	〃 〃 木上	〃	地下式板石積石室墓
94	夏女	〃 〃 〃	〃	住居跡
95	立野	〃 〃 〃雀迫	〃	散布地
96	四ツ塚	〃 〃 木上四ツ塚	台地	散布地
97	松木園	〃 〃 一武松木園	〃	〃
98	才柿	〃 〃 〃 才姉	〃	〃
99	覚井	〃 〃 〃 覚井	〃	〃
100	亀塚	〃 〃 西亀塚	〃	〃
101	下原	〃 〃 一武下原	〃	〃
102	本目	〃 免田町下乙本目	扇状地	地下式板石積石室墓
103	才園	〃 〃 才園	〃	散布地
104	市房隠	〃 〃 吉井市房隠	〃	箱式石棺墓
105	上築地	〃 〃 築地権見		散布地
106	岩川	〃 深田村岩川	台地	〃
107	新深田	〃 〃 新深田	〃	地下式板石積石室墓
108	清水	〃 上村清水	〃	散布地
109	塚脇	〃 〃 上塚脇	〃	〃
110	桜木	〃 〃 〃桜木	〃	〃
111	脇山道	〃 〃 〃脇山道	〃	〃
112	国貞	〃 〃 〃国貞	〃	〃
113	上秋時	〃 〃 〃上秋時	〃	〃
114	永山	〃 〃 〃永山	〃	〃
115	金山	〃 〃 皆越金山	〃	〃
116	大久保	〃 多良木町黒肥地大久保	丘陵	地下式板石積石室墓
117	米山	〃 湯前町米山	台地	散布地

■大分県

1	石井入口	竹田市菅生石井入口	台地	住居跡
2	政所西	直入郡荻町政所	〃	〃
3	古賀	〃 〃 藤渡古賀	〃	〃
4	谷尻原	〃 〃 馬場谷尻原	〃	
5	蜘蛛手	〃 〃 桑木蜘蛛手	〃	

■宮崎県

番号	遺跡名	所在地	立地	備考
1	薄糸平	西臼杵郡高千穂町田原薄糸平	台地	
2	柚木野	〃 〃 上野柚木野		
3	保木下	宮崎市島之内保木下		包含層
4	黒迫	〃 黒迫	平野	
5	中岡	〃 北川内町中岡	台地	土器焼成坑
6	加納	宮崎郡清武町加納		
7	六野原	東諸県郡国富町八代北俣	台地	住居跡
8	須木	西諸県郡須木村須木		
9	城ケ尾	北諸県郡高城町石山城ケ尾		住居跡
10	様屋敷第二	〃 高崎町前田鳥越前		〃
11	大萩	西諸県郡野尻町三ケ野山	台地	土壙墓
12	正覚原	小林市真方正覚原		
13	細野	〃 細野刈目		
14	水落	〃 〃 水落・脇ノ上		住居跡
15	永田平	〃 永田平		
16	永田原	えびの市今泉永田原		住居跡
17	灰塚	〃 西長江灰塚		

■鹿児島県

1	溝下	出水市溝下		墓地
2	木牟礼城	出水郡高尾野町木牟礼	丘陵	
3	堂前	〃 〃 紫引	扇状地	葺石土壙墓
4	高松	〃 〃 下高尾野高松	〃	
5	手向山	大口市鳥巣手向山	丘陵	
6	ヒヨク田ノ上	〃 下殿高津原ヒヨク田ノ上	台地	
7	大住	〃 宮人大住	〃	地下式板石積石室墓
8	浜場	〃 下殿高津原浜場	河岸段丘	
9	里町	〃 里町	平地	集落跡
10	諏訪野	〃 原田二ノ山	台地	地下式横穴墓
11	忠元神社前	〃 〃 忠元丘	〃	〃
12	焼山	〃 下殿焼山	丘陵	地下式板石積石室墓
13	前畑	伊佐郡菱刈町田中前畑	台地	箱式石棺墓
14	中町馬場	薩摩郡里村村西中町馬場		包含層
15	里	〃 〃 里	砂丘	墓地
16	大原宮園	〃 下甑村手打大原宮園	〃	集落跡
17	七ツ迫	川内市小倉町七ツ迫		

■鹿児島県(つづき)

番号	遺跡名	所在地	立地	備考
18	外川江	川内市上川内町		散布地
19	北方	姶良郡栗野町北方	台地	
20	十三塚原	〃 溝辺町空港敷地内	〃	集落跡
21	石峰	〃 〃 麓石峰	〃	〃
22	黒川鼻	〃 加治木町黒川鼻	山地	
23	萩原	〃 姶良町平松萩原	台地	集落跡
24	保養院	〃 〃 〃 堅野	〃	〃
25	武	鹿児島市桜島町武榎川	扇状地	
26	不動寺	〃 下福元町不動寺	台地	集落跡
27	松木薗	日置郡金峰町尾下松木薗	〃	〃
28	天神原	〃 〃 宮崎天神原	〃	〃
29	新山	〃 〃 阿多新山		
30	上加世田	加世田市川畑		散布地
31	松ノ尾	枕崎市汐見町松ノ尾	砂丘	墓地
32	成川	揖宿郡山川町成川	丘陵	〃
33	納曽	西之表市西之表納曽		
34	長谷	熊毛郡南種子島町長谷		
35	第2アヤマル	大島郡笠利町須野		散布地
36	長浜金久第III	〃 〃		包含層

■沖縄県

1	具志原貝塚	国頭郡伊江村川平	砂丘	貝塚
2	宇堅貝塚	具志川市宇堅岩地原	〃	〃

3．免田式土器の交流

免田式土器の分布を調べていくと、注意すべき点が他にも出てきます。前の章で、「菊池川流域や天草地方を除いた熊本県を中心に、九州中・南部地方において、独自の文化を築き上げた人々の社会があり、独自の文化のひとつに免田式土器があるのだはないか。」ということを述べました。

ところが、九州中・南部地方から遠く離れた、福岡県や佐賀県、長崎県などの北部九州地方や、海をへだてた沖縄県などの南島地方からも免田式土器の出土例が報告されているのです。

これらの地方から出土している土器は、偶然に形や文様が免田式土器に似たのではなく、九州中・南部地方のどこからか持ちこまれたのか、免田式土器に似せて作られたのではないかと思われます。

南島地方を例に考えてみましょう。

沖縄県では、宇堅貝塚と具志原貝塚の２つの遺跡から免田式土器が発見されています。在地の土器と比べて、使われている粘土や作り方が違うことから、持ち込まれたものであろうと発掘担当者は考えています。免田式土器のほかにも、九州地方の弥生土器が数点ずつ発見されています。

このことは、九州地方と沖縄県を含めた南島地方とにおいて、何らかの交流を示すものです。どのような交流があったかについて、１つの例を紹介します。

九州地方では、縄文時代の数千年前から古墳時代にかけて、南島地方以外では生息しない貝で作った貝輪（ブレスレット）が、多くの遺跡から発見されています。弥生時代のお墓からの出土例を調べてみると、全ての人々が貝輪をつけていたわけではないようです。当時の海を渡る技術を考えると、この貝輪がいかに貴重品であったかが想像できるでしょう。身分の高い人たちのための権威のシンボルとして身に付けられていたのかもしれません。

このように、九州地方の人々は、貴重な貝輪を求め、その代償として様々な品物を支払ったのではないでしょうか。

南島地方に限らず、分布の中心から遠く離れた地方から出土している免田式土器の背景には、人々の交流や自分たちの生活に役立つ品物の交換があったことでしょう。

免田式土器が、一般的な弥生土器と比べ、形や文様の優美さから、一つの交易品としてそれらの地方にもたらされたのか、貴重な品物を入れる容器として運ばれ、もたらされたかなどについての解釈は、今後の発掘例の増加と研究の発展を待ちたいと思います。

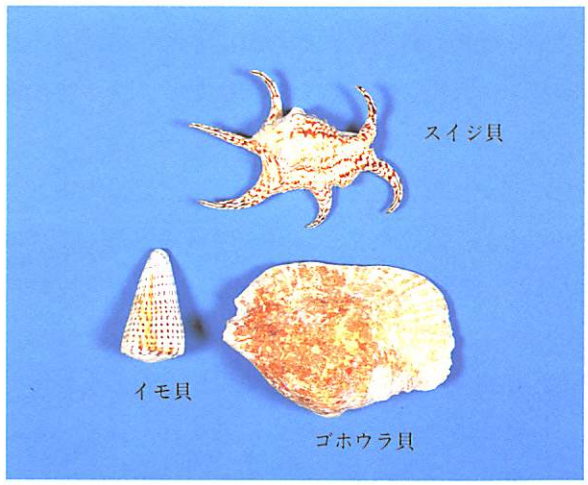
大坪貝塚出土貝輪(ゴホウラ貝製)

佐賀県二塚山遺跡出土の免田式土器

沖縄県宇堅貝塚出土の免田式土器

福岡県下稗田出土の免田式土器

貝輪装着人骨出土状況(小川町 大坪貝塚)



南海性貝類

4. 免田式土器の誕生

免田式土器は、いつごろ、どこで誕生したのでしょう。今まで多くの研究者が、この問題を解決しようと様々な研究を行ってきましたが、定説となるまでにはいたっていません。

新しい土器が誕生するためには、作者の独自の発想による製作と、モデルとなる土器を参考にして、新たな発想をつけ加えて製作する2通りの方法が考えられます。考古学的に土器を調べていくと、後者の方法をとることがほとんどのようです。

免田式土器が誕生するためには、この土器よりも古い時期のモデルとなった土器があったはずです。そのモデルをつきとめれば免田式土器の誕生が解き明かされることになります。

では、そのモデルはどこにあったのでしょう。ここでも2通りの考え方をすることができます。1つは、ほかの地方で使われている土器が自分たちの生活する地方にもたらされ、その土器をモデルとする考え方（外来説）です。また、もう1つは、自分たちの地方で長年使っていた土器をモデルにする考え方（在地説）です。ここでは、免田式土器のモデルとして考古学会に紹介されている土器の中から、外来説を代表して、八女市内出土の土器、在地説を代表して熊本県矢部町稲生原遺跡の土器、それから鹿児島県高尾野町堂前遺跡の土器を紹介します。

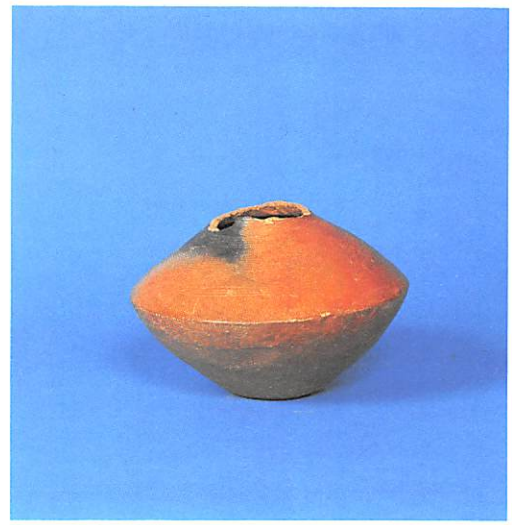
八女市内出土の土器は、出土地が不明ですが、一緒に出てきた土器なども参考にすると弥生時代中期の終わりころの土器だと考えられます。このような土器も、北部九州地方で突然誕生することから、外来説と在地説の意見があります。外来説としては、畿内地方の壺形土器の影響を受けたとする考え方で、在地説は、弥生時代中期の口縁部が袋状にふくらむ長頸壺からの影響を受けたとする考え方です。

稲生原遺跡の土器は、お墓と思われる土壙（掘くぼめられた穴）から出土しています。頸部に沈線を施すのではなく、粘土をはりつけ、階段上に表現しているのが特徴です。弥生時代後期の前半ころの土器だと考えられます。

堂前遺跡の土器は、土壙にかぶせた板石の上に置かれた状態で出土しました。この土壙もお墓でしょう。胴部から下がなくてわかりにくいですが、鹿児島県では「山の口式土器」と呼ばれているものです。稲生原遺跡の土器と同じように、頸部が階段状になっています。弥生時代中期の後半から後期前半の土器だと考えられています。

さて、皆さんは紹介した3つの土器の中で、どれが免田式土器のモデルになったと思いますか。どれもが免田式土器によく似ていますね。重弧文の文様がどこから取り入れられているのかについて、弥生時代前期の壺に描かれている重弧文ではないかとする説や、畿内地方で弥生時代中期から後期にかけての土器に発達する櫛描波状文の影響を受けたとする説などがあります。しかし、これもまた、はっきりしたことはわかっていません。

八女市内出土の壺



不知火町出町遺跡出土の免田式土器

鹿児島県堂前遺跡出土の壺

免田町市房隠遺跡出土の免田式土器

矢部町稲生原遺跡出土の壺

5. 様々な遺跡と免田式土器

免田式土器は、どのような遺跡から出土するのでしょう。現在までの発掘例でまとめると遺跡の性格上、次のようになります。

①住居の中
②住居や村を取り囲む溝（環濠）の中
③お墓の中や周辺（石棺墓、木棺墓、土壙墓、葺石土壙墓、地下式板石積石室墓）
④土壙の中（掘りくぼめた穴）
⑤土器の製作跡

そこで、代表的な遺跡とそこから出土した免田式土器を紹介しましょう。

夏女遺跡（球磨郡錦町大字木上字夏女）

夏女遺跡は、球磨川右岸の高原台地にあります。県営農免農道整備事業にともない、熊本県文化課により、平成元年と平成２年の２次にわたって発掘が行われました。

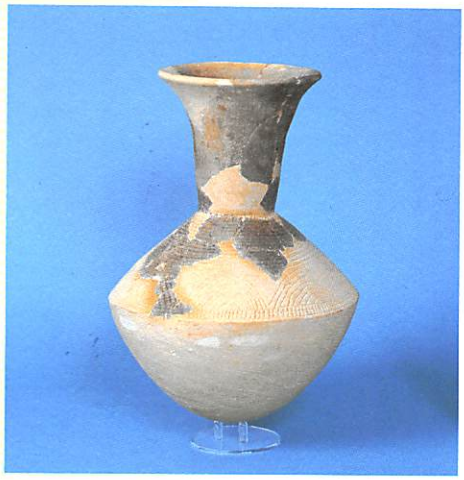
この遺跡は弥生時代後期から古墳時代はじめにかけての集落の跡です。68軒の住居跡のほか、集落を外敵から守るために掘られた溝などが検出されています。主な出土遺物は、たくさんの土器とともに、稲の穂つみ具である石包丁のほか、たいへん貴重な青銅鏡２点と銅釧（ブレスレット）１点も発見されています。

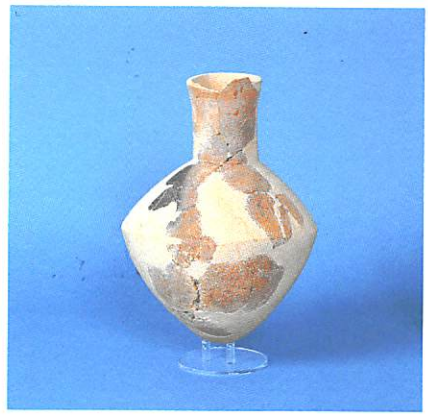
住居跡の中で１つだけ変わった形をしたものがありました。第57号住居跡です。全体的には円形をしているのですが、西側に４つのでっぱりをもっており、その部分だけが一段高くなっているのです。宮崎県などに類例はありますが、熊本県ではじめての発見でした。

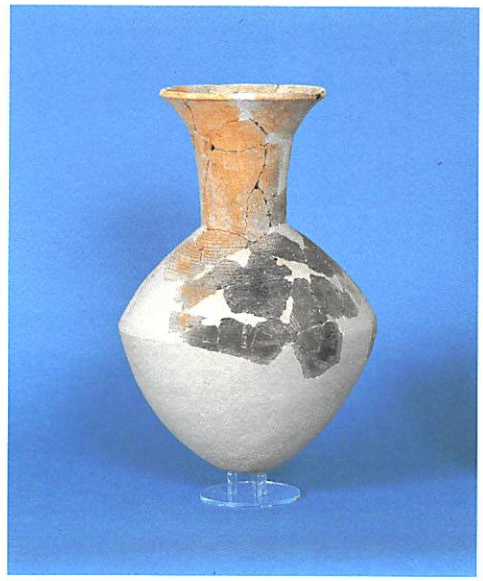
この住居跡の中から、一度に捨てられたようにたくさんの土器が出土しています。しかも、この遺跡から出土した免田式土器の95パーセント以上が、57号住居跡から出土しているのです。

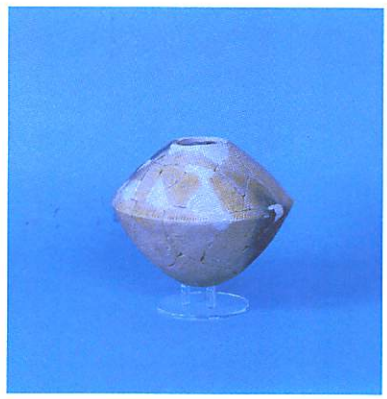
57号住居跡発掘状況

57号住居跡出土の免田式土器







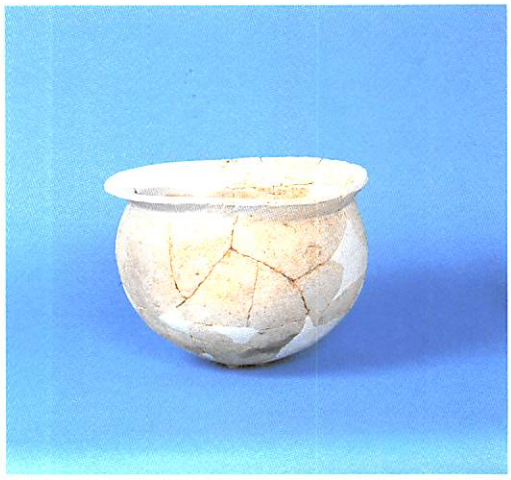


夏女遺跡出土の様々な土器

カメ

カメ

壺



鉢

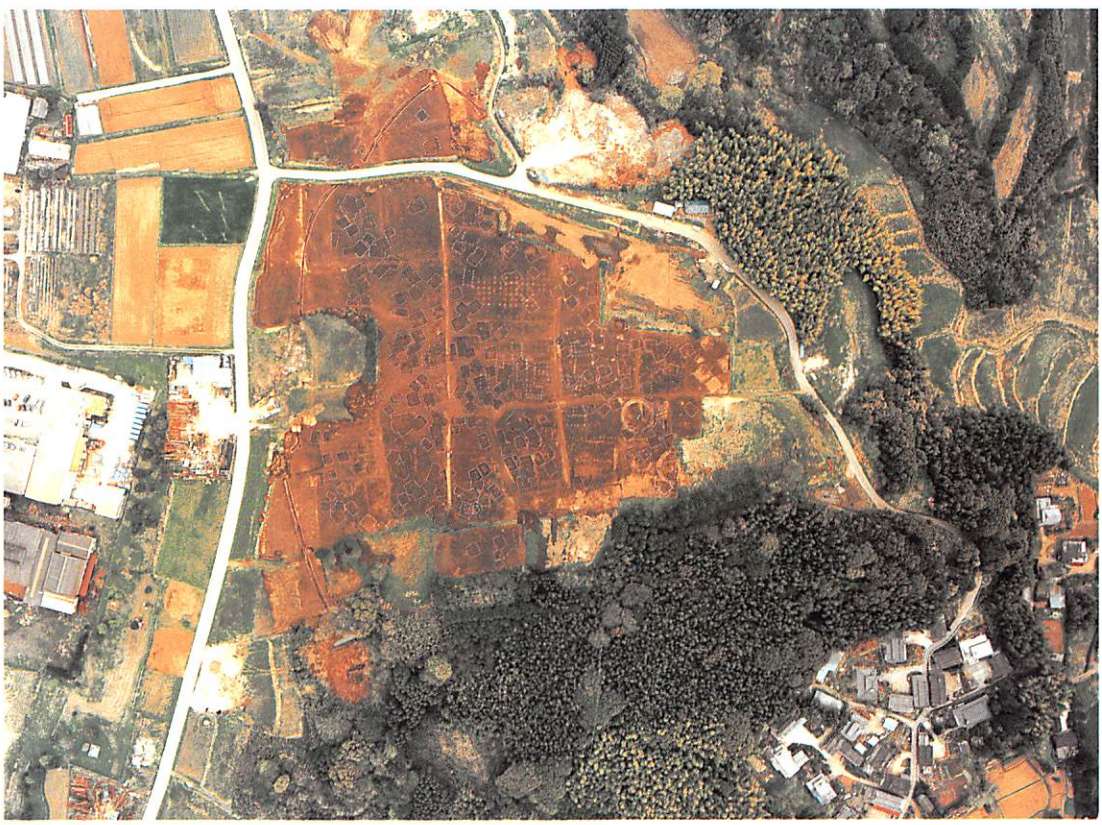
ミニチュワ土器

二子塚遺跡（上益城郡嘉島町大字甘木字塚ノ上）

二子塚遺跡は、熊本平野を見下ろす甘木丘陵台地にあります。熊本内陸工業団地造成にともない、熊本県文化課により、昭和63年から平成２年まで、２年５カ月もの歳月をかけて発掘調査が行われました。

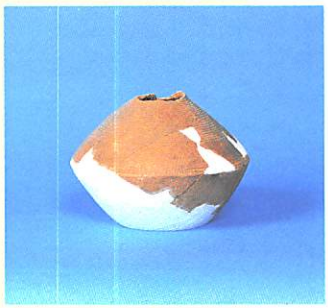
縄文時代や古墳時代の遺物や遺構も発掘されましたが、弥生時代の集落が完全に発掘されたことで注目を集めました。一部弥生時代中期を含みますが、弥生時代後期を中心とした４時期にわたる集落で、広さが約３万平方メートルに及びます。住居跡だけでも267軒検出されています。中には、普通の住居の４倍もある家や、鉄を加工したと思われる、鉄片を多数出土した家も見つかっています。集落の北側には、長さが約300メートルにわたり、断面がＶ字形をなす守りのための溝が、半月状にめぐっていました。

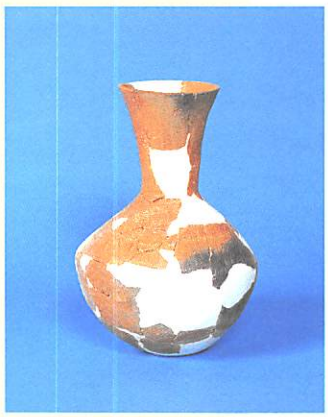
出土した土器は、コンテナにして約1000箱に及びますが、その中から10数点、復元できる免田式土器が出土しています。ビールを飲むジョッキの形をした免田式土器も含まれています。主に住居の中や、溝の中から出土しました。

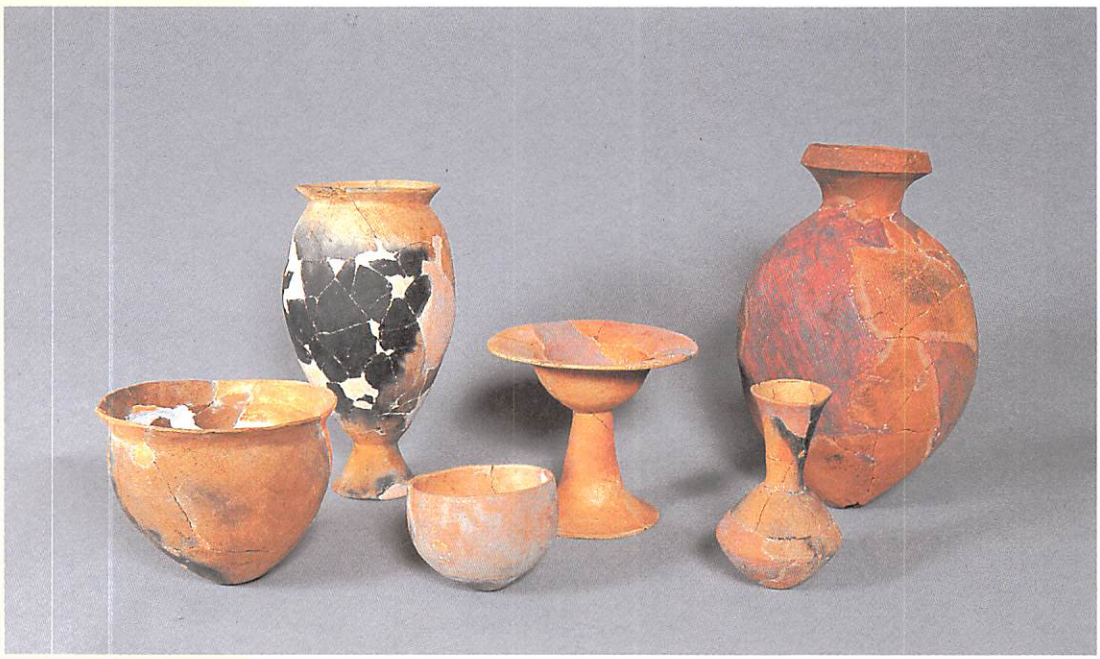


遺跡全景

二子塚遺跡出土の免田式土器

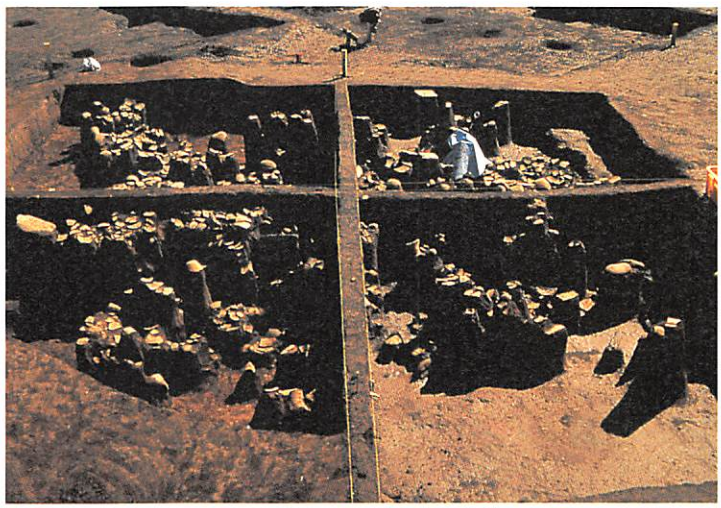






日用雑器類一括

免田式土器に似た壺



住居跡発掘状況

黒く着色された壺

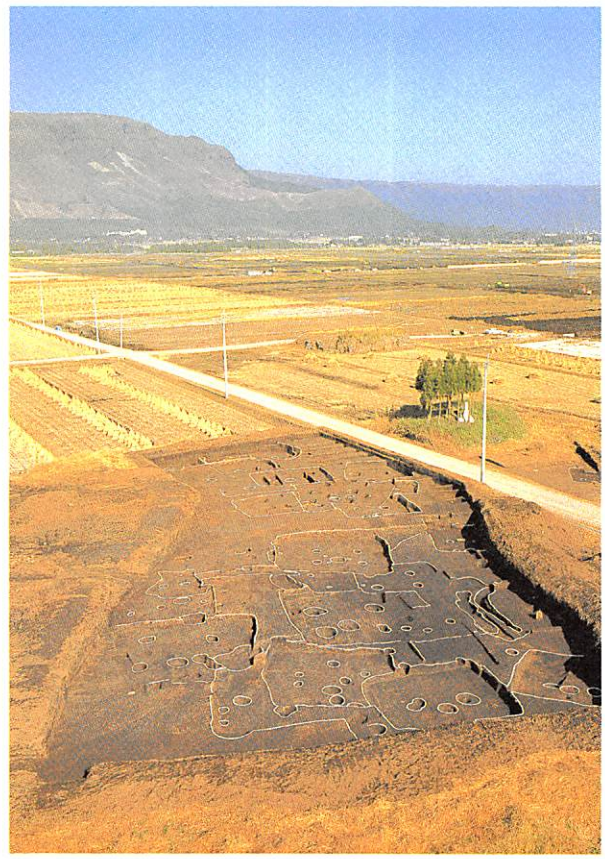
下山西遺跡（阿蘇郡阿蘇町大字乙姫字下山西）

下山西遺跡は、阿蘇カルデラの中央火口丘から北側に向かって傾斜する、丘陵上にあります。県営圃場整備にともない、熊本県文化課により、昭和57年と58年の２次にわたって発掘調査が行われました。

弥生時代後期の集落で、34軒の住居跡と集落そばの微高地から４基の箱式石棺墓が検出されています。箱式石棺墓には、いずれも多量のベンガラ（赤色顔料）が石棺の内側に塗られたり、敷きつめられたりしていました。その量は、30～40キログラムにも及びます。おそらく、この地方に原料となる土を産出する所があるだろうと考えられています。なお、１号石棺墓からは、ガラス小玉１点、２～４号石棺墓からは、鉄製の剣が１点ずつ副葬品として出土しています。

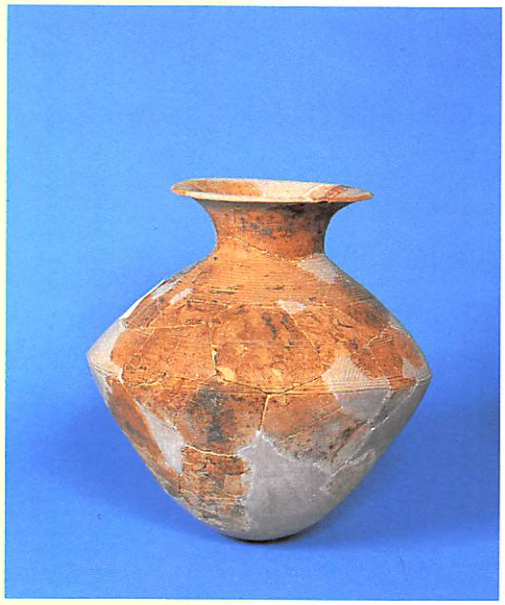
遺物はコンテナ約100箱分の土器や石器のほか、ガラス製勾玉、銅鏡、163点にも及ぶ鉄器が出土しています。

免田式土器は、約20点ほど出土していますが、その中で復元できるのは２点だけです。１つは住居の中から、置かれたように出土しています。もう１つも、３号石棺墓の北側に置かれたように出土しています。

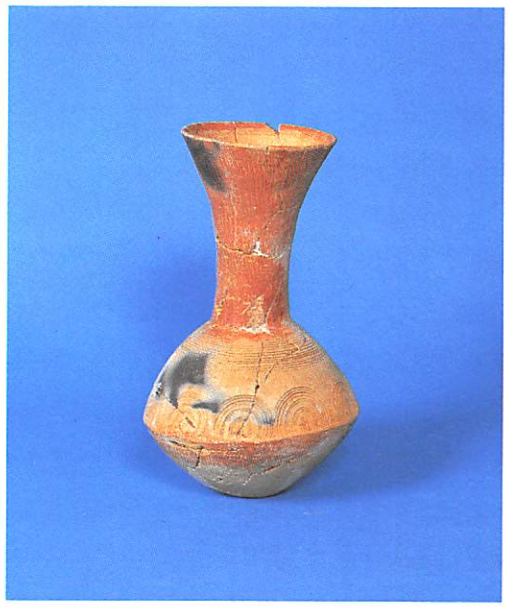


遺跡全景

下山西遺跡出土の免田式土器



1号住居跡内出土の免田式土器



3号石棺墓北側出土の免田式土器

石棺墓出土状況

大萩（おおはぎ）遺跡土壙墓群（宮崎県西諸県郡野尻町字西柿川内）

大萩遺跡土壙墓群は、シラスを基盤とする河岸段丘上にあります。特殊農地保全事業にともない、宮崎県教育委員会によって昭和48年に発掘調査されました。

弥生時代後期を中心とした墓地群で、この遺跡から南西方向に１段さがった台地上から、同時代の集落が検出されています。

この遺跡からは、19基の土壙墓が検出されており、その周辺から、意図的にこわされた土器がたくさん捨てられた集積群が、11カ所見つかっています。

特に注目されたのが、４、５、６号土壙墓です。４号土壙墓からは、ガラス製の小玉560個、５号土壙墓からは貝輪が複数、６号土壙墓からはガラス製の丸玉１個小玉60個が、副葬品として土壙墓内から発見されています。これに対応するように、４、５号土壙墓の真上から、免田式土器の他、各種の土器が折り重なった状態で検出されています。

これらの状況や、他の土壙墓からそれらの遺物が出土していないことから、４、５、６号土壙墓に埋葬された人物は、村の中でも特別な地位にあった人ではないかと考えられます。

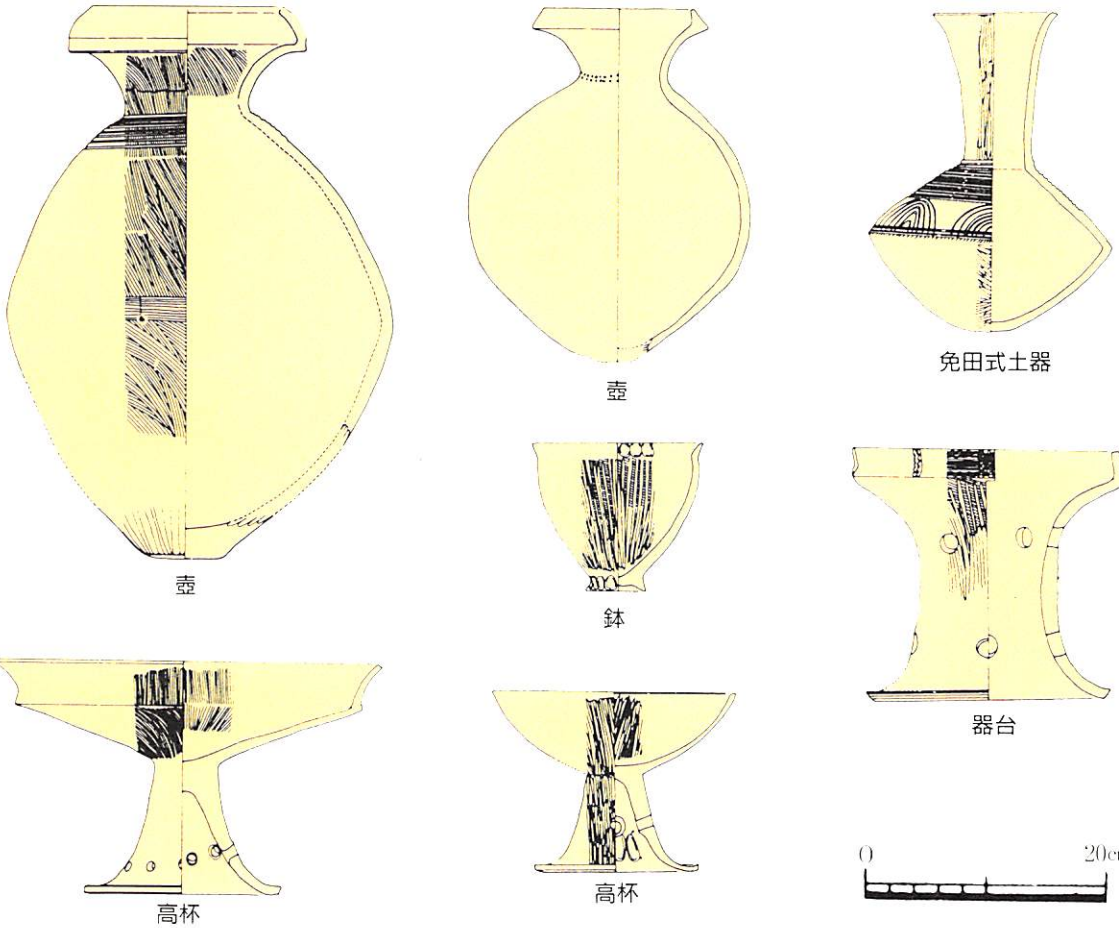
なお、集落の中からは、免田式土器は発見されていません。

大萩遺跡出土の免田式土器

土器出土状況

土壙墓発掘状況

4、5号土壙墓出土土器実測図



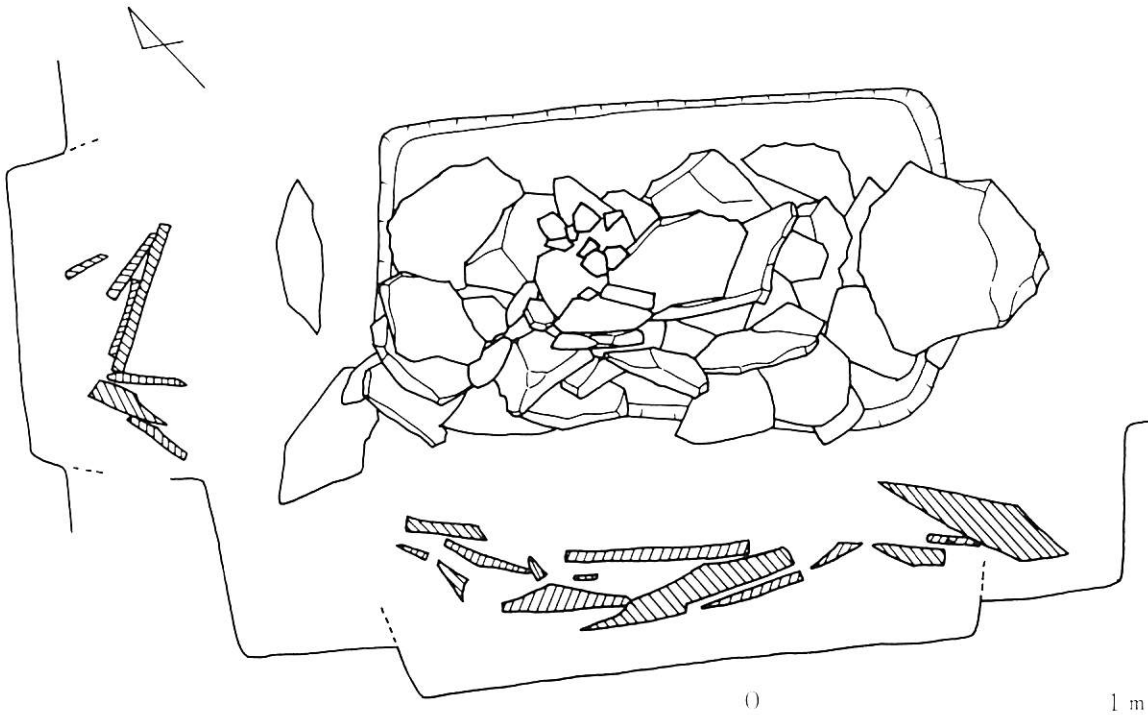
堂前遺跡（鹿児島県出水郡高尾野町字紫引）

堂前遺跡は、高尾野川、野田川２つの河川にはさまれた扇状地の東側縁辺部にあります。県営圃場整備にともない、高尾野町教育委員会の委託を受けて、河口貞徳、池水寛治氏らにより、昭和46年と47年の２次にわたって発掘調査が行われました。

弥生時代後期から古墳時代にかけての墓地群と考えられ、約20基ほどの墓地が検出されました。墓地群は北と南の２地点にわかれるようです。北側の墓地群には、土壙に遺体を安置した後、土をかぶせ、板石で上面を覆いかぶせる「葺石土壙墓」が多く、南側の墓地群には、竪穴の壁を板石で覆い、遺体安置後に土をかぶせ、板石で上面を覆いかぶせる「地下式板石積石室墓」が多く検出されました。年代は、前者が弥生時代後期に、後者が古墳時代に相当します。いずれも南部九州、特に鹿児島県に多いお墓の形態です。

免田式土器は、17号葺石土壙墓の葺石中央部に直接置かれた状態で出土しました。免田式土器の誕生で紹介した、山の口式長頸壺は、このお墓から1.5メートル離れた地点から出土しています。

遺跡全景



17号土壙墓実測図

免田式土器

山の口式長頸壺

柏木谷遺跡（阿蘇群久木野村大字久石字柏木谷）

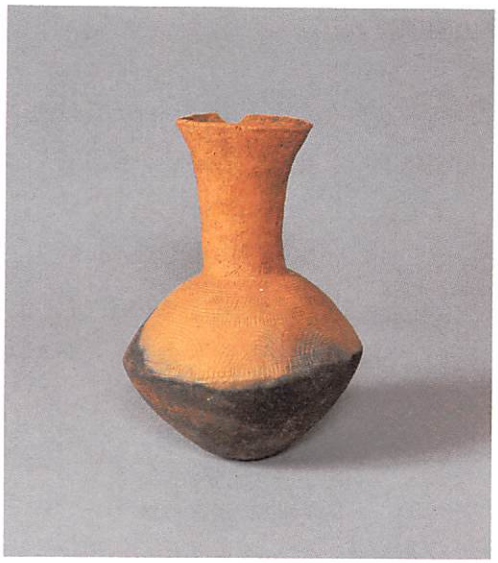
柏木谷遺跡は、阿蘇外輪の北側斜面、白川左岸の丘陵地にあります。県営圃場整備にともない熊本県文化課により、平成３年１月から１年にわたって発掘調査されました。

約１万平方メートルにおよぶ遺跡で、縄文時代の住居跡５軒、古墳時代の方形周溝墓12基、円形周溝墓９基の遺溝のほか、多くの土器や石器などが出土しています。

免田式土器は、弥生時代後期の21軒の住居跡を含む集落から発見されています。特に注目を集めたのは、６号住居跡です。この家は、火事によって焼け落ちていました。火事によってこの家が使えなくなった後、穴を掘り、その中に熊本地方の甕と東九州地方の壺、そして免田式土器が納められていたのです。このように各地の土器が、１つの土壙から一緒に出土した例は、県内でも初めてです。その他２点の免田式土器が、他の住居跡の中から出土していますが、小さな破片です。

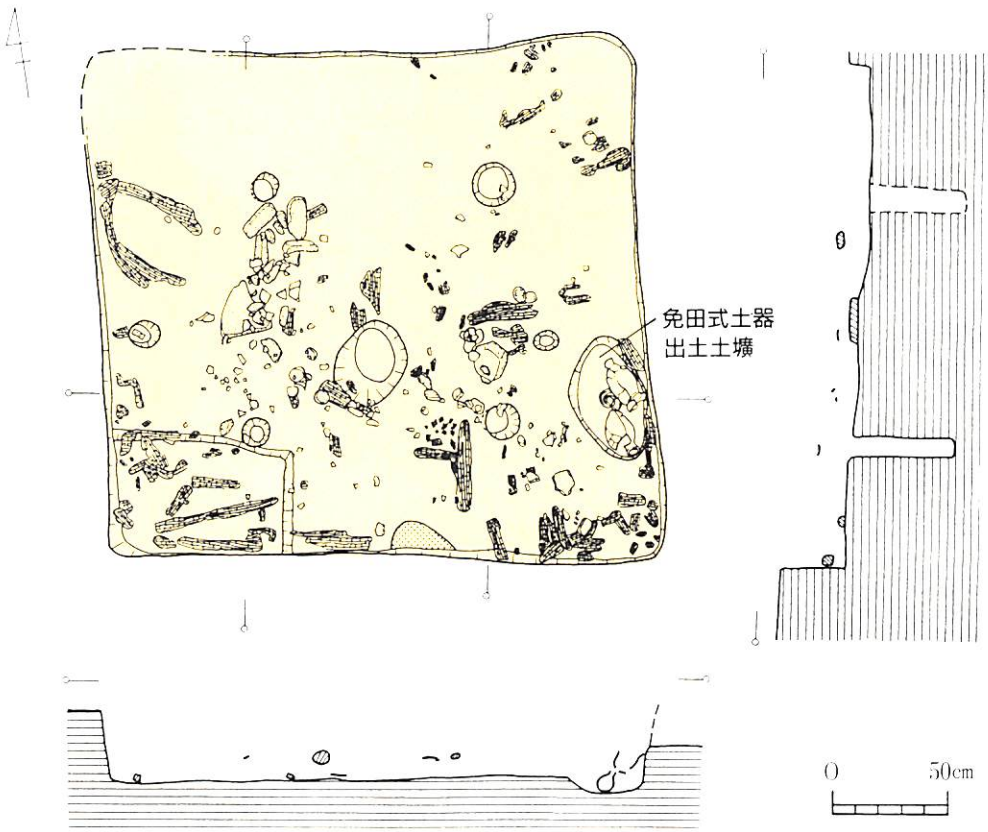
なお、この遺跡は、久木野村を含む南郷谷地区において、学術的にも大変貴重な遺跡であったため、発掘が進むにつれ、こわさずに残そうという声があがり、発掘終了後、県指定史跡になりました。そして、村当局の熱意と土地所有者の温かい理解により、今後史跡公園として整備される予定です。

遺跡全景



免田式土器

土壙発掘状況



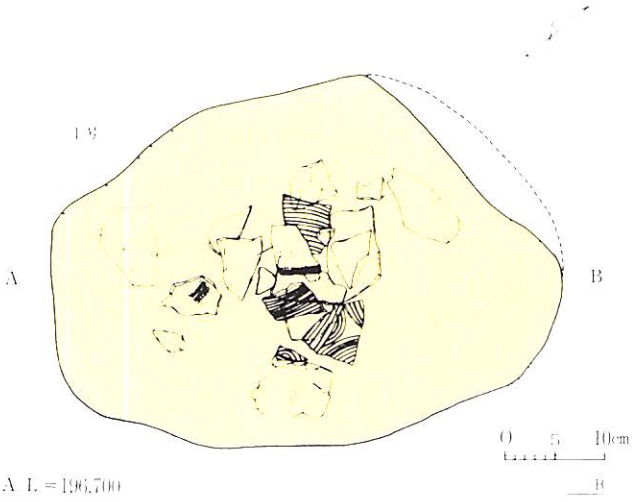
6号住居跡実測図

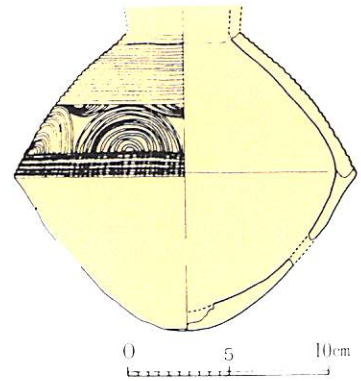
大丸・藤ノ迫遺跡（球磨郡山江村大字山田字藤ノ迫）

大丸・藤ノ迫遺跡は、球磨川北岸の通称シラスと呼ばれる入戸火砕流を基盤とした丘陵地にあります。九州縦貫自動車道の建設にともない、熊本県文化課により、昭和56年から翌57年にかけて、約１年間発掘調査が行われました。

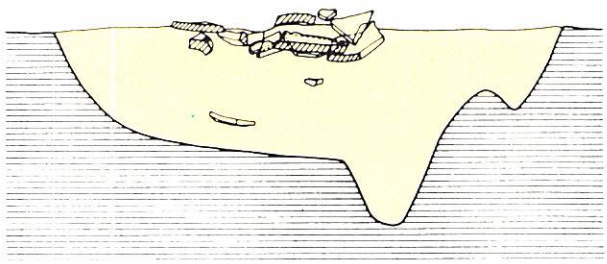
縄文時代早期の土器や遺構が多く検出された遺跡ですが、弥生時代後期の住居跡が11軒、土器埋納土壙が２基、各種の遺構のほか、土器や石器なども発掘されています。11軒の住居跡は、検出地点と住居の建て替えの関係から、同時に存在したのではありません。数軒で１つの集落を形成したようです。どちらかというと小さな集落といえるでしょう。

免田式土器は、住居内からも２点出土していますが、いずれも小破片です。この遺跡で注目されるのは、１号土器埋納土壙です。長さ約50センチメートル、幅約35センチメートル、深さ約20センチメートルの楕円形の土壙で、埋められたように免田式土器が検出されています。頸部から上が残っていませんが、畑の耕作などにより削りとられたのでしょう。





免田式土器実測図



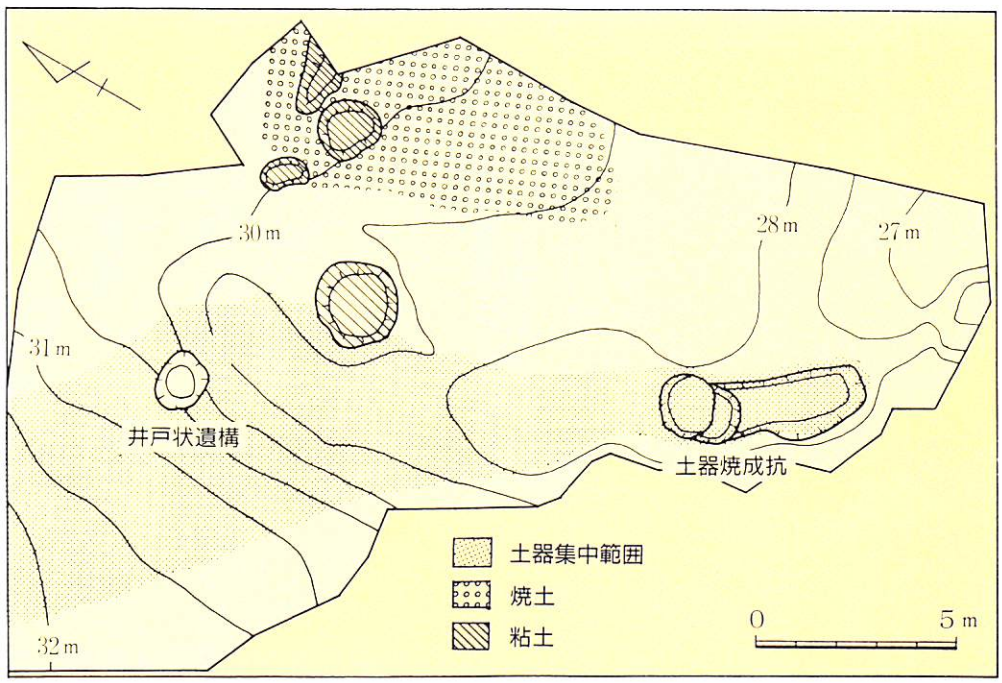
土器埋納土壙実測図

中岡遺跡（宮崎市北川内町字中岡）

中岡遺跡は、シラスを基盤とした丘陵部斜面のすり鉢状のくぼ地にあります。畑地造成にともない、宮崎市教育委員会により、昭和57年から翌58年にかけて約４カ月間、発掘調査が行われました。

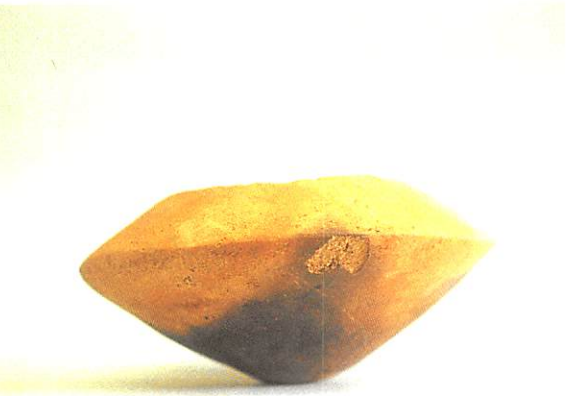
弥生時代後期の土器作りを行っていた遺跡です。この遺跡には、粘土をこねるために必要な水を確保するための井戸、粘土を積み上げた盛土、土器を焼くための焼成坑があり、このような例が全国でもほとんどないことから、研究者の注目を集めました。焼成坑は２つあり、粘土で壁を作ったり、大型の土器片を壁に張りめぐらしており、内部は強く火を受け焼けていました。また、その周辺には、土器や灰をかきだした跡（モノワラ）があり、破片を含めると数万点にのぼる土器が出土しています。

免田式土器は、モノワラの一番下の層から、ほかの土器に混じって出土しました。使われている粘土や作り方を調べてみると、どうやら、モデルとなる免田式土器を持ち込み、それをまねて免田式土器やそれに似た土器を作っているようです。

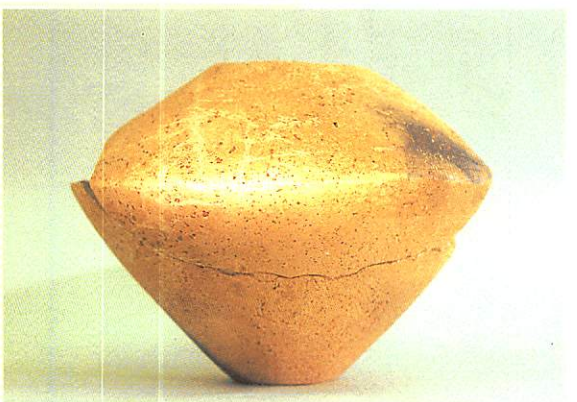


中岡遺跡全体図

モデルとなった？免田式土器



免田式土器



免田式土器

発掘状況

6．免田式土器はどのように利用されたのか

これまで、免田式土器を出土した代表的な遺跡を紹介してきました。ここでは、免田式土器が何のために利用されていたのかについて、考えてみましょう。

「免田式土器とは何か」という章のなかでもふれましたが、免田式土器は、発見当初からその文様と形が注目されてきました。夏女遺跡や二子塚遺跡の一般的な弥生土器に比べると、特徴の違いが理解いただけたと思います。一般的な弥生土器と表現した土器が、日常生活で使用されるとするならば、免田式土器には特別な利用方法が考えられます。

遺跡における免田式土器の出土状況はどうでしょうか。発掘調査が行われた遺跡の場合、お墓の中やその周辺から出土することが多いようです。もちろん、一般的な弥生土器と同じように集落内から出土する例もあります。その場合、遺跡全体の土器量と比較すると、ごくわずかの比率でしかありません。集落においても数少ない貴重な土器であることがわかります。

また、完全に復元できる免田式土器を調べてみると、土器の底などに意図的に穴をあけていることがあります。穴をあけると、容器としては二度と利用できないわけですから、ここにも特別な意味がこめられていることがわかります。

これらのことから、免田式土器は、特別な儀式やお祭に使用されたのではないかと考えられています。具体的にどのような儀式やお祭が行われていたのかは、わかっていません。空想をひろげるならば、作物の豊作を祈り、またこれをよろこんだり、村人の安全や村の発展を願ったり、また、人の死に際しては故人を弔うような儀式やお祭ではなかったかと考えられます。

当時の日本の様子が書かれた魏志倭人伝の一節を紹介しましょう。免田式土器を利用していた人たちのことが、これにあてはまるかどうかについては疑問も残りますので、一つの参考に留めておいてください。

> ……其の死には棺有るも槨無く、土を封じて冢を作る。始め死するや停喪まで十余日、当時肉を食わず、喪主は哭泣し他人は就きて歌舞・飲酒す。……

故人をしのび泣き叫び、歌を歌い舞い踊る。悲しみをこらえて酒を飲む。別れがすむと、器に穴をあけて墓前にそなえる。もう二度と使えなくするその行為が、あたかも現世との決別を表しているようにも感じられます。

7．免田式土器の終末

弥生時代期後半は、免田式土器とその利用に表されるように、地方の伝統を色濃く残しつつも、来たるべき国家統一に向けて、大きな波が押し寄せてくる時代でもありました。

土器にもその変化が表われます。畿内地方の土器作りの技法が、瀬戸内海を経由して九州に上陸し、さらに九州山地をこえて、九州中・南部地方の在地の土器に取り込まれていきます。そのような土器文化の波が断続的に押し寄せてくることによって、地方色は弱まり、汎日本的な土器へと変化してしまうのです。３世紀末から４世紀はじめ、古墳時代の始まりです。

免田式土器もまた同様でした。弥生時代の終末で姿を消してしまうのです。古墳時代になっても儀式やお祭は姿を変えて継承されていくようですが、免田式土器が使われなくなったのはなぜでしょう。地方色が強く表われた土器であったため、何らかの制約を受けたとも考えられます。

しかしここでは、新しい社会や文化をいちはやく吸収しようとした当時の人々の、積極的な働きかけと解釈しておきましょう。

免田式土器。清楚で美しいその姿形は、ひとつの芸術品と言ってもよいでしょう。

私たちの祖先のよろこびやかなしみがしみこんだ土器。その祈りが、千数百年をへだてた今、静かに聞こえてくるようです。

古閑南遺跡土器一括

所蔵者別出品資料目録（一部展示図録には掲載していない資料もあります）

個人・機関名	遺　跡　名	資　　料　　名	
高田素次	本目遺跡	免田式土器	7点
	市房隠遺跡	免田式土器	2点
	金山遺跡	免田式土器	1点
坂本常人	稲生原遺跡	長頸壺	1点
古田一英(宇土市教育委員会所蔵)	出町遺跡	免田式土器	1点
行橋市教育委員会	下稗田遺跡	免田式土器	8点
八女市教育委員会	市内出土	長頸壺	1点
佐賀県立博物館	二塚山遺跡	免田式土器	1点
熊本県教育庁文化課	夏女遺跡	免田式土器	6点
		甕	2点
		壺	1点
		鉢	1点
		ミニチュワ土器	10点
		57号住居跡発掘状況写真	1点
	二子塚遺跡	免田式土器	11点
		甕	1点
		壺	3点
		鉢	2点
		高杯	1点
		遺跡全景写真	1点
		土器出土状況写真	2点
	下山西遺跡	免田式土器	2点
		遺跡全景写真	1点
		石棺出土状況写真	1点
	柏木谷遺跡	免田式土器	1点
		遺跡全景写真	1点
		6号住居跡発掘状況写真	2点
		6号住居跡実測図	1点
	大丸・藤ノ迫遺跡	1号土器埋納土発掘状況写真	1点
	大坪貝塚	貝輪装着人骨出土状況写真	1点
		貝輪写真	1点
熊本県立第二高等学校	古閑南遺跡	甕	3点
		壺	1点
		高杯	3点
		鉢	2点
鹿児島県高尾野町教育委員会	堂前遺跡	免田式土器	1点
		長頸壺	1点

所蔵者別出品資料目録（つづき）

個人・機関名	遺　跡　名	資　　料　　名
宮崎総合博物館	大萩遺跡	免田式土器　1点
		免田式土器図録用写真　1点
宮崎県教育庁文化課	大萩遺跡	土壙墓発掘状況写真　2点
宮崎市教育委員会	中岡遺跡	免田式土器　3点
		壺　1点
		免田式土器図録用写真　2点
		壺図録用写真　2点
		発掘状況写真　2点
具志川市教育委員会	宇堅貝塚	免田式土器　1点

その他

資　　料　　名	参考・引用文献名
免田式土器出土遺跡分布図 免田式土器出土遺跡地名表	高千穂シンポジウム実行委員会『海と里と山の考古学』1983 肥後考古学会・鹿児島県考古学会『肥後考古学会・鹿児島県考古学会連合学会資料』1984 山下志保「熊本県阿蘇郡蘇陽町椎屋戸石平遺跡 －中九州山岳地域の弥生時代をめぐって－」 『九州考古学』第67号　1992
大丸・藤ノ迫遺跡 土器埋納土壙実測図 大丸・藤ノ迫遺跡 土器埋納土壙出土免田式土器実測図	熊本県教育委員会『大丸・藤ノ迫遺跡』1986
堂前遺跡　17号土壙墓実測図	河口貞徳・上村俊雄「別府原・堂前古墳の調査 －地下式板石積石室について－」 『考古学雑誌』第57巻第1号1970
大萩遺跡 4･5号土壙墓出土土器実測図	宮崎県史刊行会『宮崎県史』資料編　考古　1　1989
中岡遺跡　中岡遺跡全体図	宮崎市教育委員会『中岡遺跡』1987

協力機関
協力者一覧

今回の企画展開催および図録作成に際しましては、多くの方々や関係機関に多大なご指導・ご協力を受けました。ご芳名を記し、深甚なる謝意を表します。

(敬称略)

熊本県教育庁文化課
宮崎県教育庁文化課
宮崎県埋蔵文化財センター
八女市教育委員会
宮崎市教育委員会
具志川市教育委員会
熊本県立第二高等学校
佐賀県立博物館
宮崎県総合博物館
行橋市教育委員会
宇土市教育委員会
みやざき歴史文化館
高尾野町教育委員会

高田　素次　坂本　常人　古田　一英　緒方　勉
松舟　博満　隈　昭志　島津　義昭　江本　直
園村　辰実　木崎　康弘　吉田　正一　中村幸史郎
浦田　信智　清田　純一　高木　恭二　野間　重孝
永井　淳生　近藤　協　長友　良典　戸高真知子
蒲原　宏行　赤崎　敏男　村上智恵子　山崎　雅孝
池田　栄史　大城　剛　池畑　耕一　中村　直子

第3回企画展図録
弥生人の祈り
—免田式土器の謎—
平成5年4月
発行／熊本県立装飾古墳館
〒861-05 熊本県鹿本郡鹿央町大字岩原3085番地
Tel 0968-36-2151（代表）
印刷／株式会社ハタノ
〒860 熊本市上熊本2丁目1-30

この電子書籍は、熊本県立装飾古墳館 企画展図録 第 3 集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、全国の歴史博物館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名：弥生人の祈り 免田式土器の謎
発行：熊本県立装飾古墳館
〒861-0561　熊本県山鹿市鹿央町岩原 3085 番地
電話：0968-36-2151
URL：http://kofunkan.pref.kumamoto.jp/
電子書籍制作日：西暦 2018 年 6 月 1 日